

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立小杉高等学校  
校長 木倉敏彦

令和7年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

## 令和7年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点課題に対する総合評価

これまで行ってきた授業改善に係る研究の成果をベースに、特に指導と評価の一体化を進めることで、教員の指導力向上を図ってきた。学習のみならず、学校生活全般にわたって主体的・協働的に活動できる生徒の育成に努め、生徒の多様な進路実現を着実に支援する指導の改善・充実に重点的に取り組んだ。また、本校が育てたい生徒像(小杉高等学校グランドデザイン)に基づいて、生徒の自己評価(小杉高等学校 Graduation Policy)も行った。

#### (1) 基礎基本の徹底

将来の社会生活の基盤となる基本的な生活習慣の定着に重点的に取り組んだ。具体的には、あいさつ、睡眠時間の確保、朝食の摂取、携帯電話の利用等について日常的に指導し、生徒に定期的にアンケートを行って自分の行動を振り返り適切な行動を考える機会を設けた。

あいさつについては、生徒指導部長を中心に数名の職員が生徒玄関で挨拶をする取り組みが毎日行われている。他にも地域のあいさつ運動への参加、職員による玄関指導、生徒会や自律委員によるあいさつ運動が盛んに進められており、明るく挨拶を交わす雰囲気ができてきた。

また、健康セルフチェックを定期的に行って生活習慣と時間の使い方を各自が振り返ったり、保健委員がポスターを制作したりして健康と生活習慣に対する意識が高まった。

#### (2) 実効性のあるキャリア教育の推進

3年間を見通したキャリア教育を計画的、継続的に行い、職業観を育み、進路意識の向上に努めた。上級学校訪問、大学学部学科調べ、射水市政出前講座、県外進路研修、社会人班別講話、企業見学等を実施し生徒の進路意識を高め、系列選択や進学・就職先の選定に役立てた。また今年度は、企業より課題をいただいてグループで解決策を探る企業課題研究に取り組んだ。本校では、計画的に高校生活を送るため生徒に手帳の活用を勧めているが、活用できている生徒が少ないため、活用できる場面を具体的に提示して有効に手帳を活用できる生徒を増やしていきたい。

#### (3) 学校生活への主体的なかかわり

観点別評価への理解が進み、到達目標、評価基準を明確にした上で、生徒に主体的に考えさせる授業が行われている。また学校行事やホームルーム活動、委員会活動では、生徒会役員やクラス委員を中心に主体的に活動が行えるよう教員が細やかに支援しており、自己達成感を持つ生徒が全校生徒の9割以上となった。また、より積極的に部活動を行いたいと高い意欲を持つ生徒が増えている。

#### (4) 教員の指導力・学校組織力の向上

I C T機器を用いた授業や、タブレットを積極的に活用した授業が日常的に行われるようになった。学習の個別最適化に向けて、さらなるI C Tの効果的活用や意欲的に学ぼうとする生徒の育成に学校ぐるみで取り組んでいる。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

本年度は、「小杉高等学校グランドデザイン」を基に、各教育活動を通して、「身に付けさせたい8つの力(①実践力・②協働力・③探究力・④発信力・⑤創造力・⑥自主性・⑦人間関係形成力・⑧自己管理能力)」を明確にし、その中で「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性」の育成と涵養に努めてきた。しかしながら、まだ自ら課題を見つけ、深く思考し、仲間と果敢に解決に立ち向かう生徒の育成には課題が見られる。次年度も引き続き、全教職員で共通理解を図りながら取り組んでいく必要がある。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和7年度 小杉高校アクションプラン - 1 -	
① 重点項目	学習活動（学びに向かう生徒の育成）
② 重点課題	主体的・対話的で深い学びを引き出す授業改善に向けた生徒・教員への支援
③ 現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的、対話的で深い学びを引き出すため、ICT 機器の活用を促進させるとともに、公開授業 WEEK や公開授業研究会等を通じて、指導と評価の一体化を目指した授業改善に継続的に取り組んでいる。</li> <li>主体性に関する学習診断シート集計結果からは、計画や目標を立てて学習する生徒は多い反面、不明な点は積極的に解決しようとする生徒は年度比較では減少傾向にある現状が見られる。</li> </ul>
④ 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒…授業に臨む姿勢(主体的な学習態度)や家庭学習のやり方についての自己評価に向上が見られたか。(年度比較・学期比較)</li> <li>教員…観点別評価に基づく授業計画を進め、ICT機器を活用し、授業改善と評価集計の効率化に向上が見られたか。(年度比較)</li> <li>達成目標に対する生徒の自己評価と教員の自己評価の内容について、前年度集計比で評価が向上した項目の数が増加すること。同様に他の項目も前年度並の水準を維持していること。</li> </ul>
⑤ 方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期毎の学習診断シート集計結果(年間5回)を担当が面談等で活用しやすいよう資料化し、生徒の意識向上につながるようにする。</li> <li>昨年に引き続き授業改善の取り組む上で、①ICT機器の活用 ②観点別評価への対応を改善し、教員の自己評価を向上させる。</li> </ul>
⑥ 達成度	生徒の自己評価と教員の自己評価について、それぞれ学習診断シート集計結果と、教員の授業自己評価集計結果のどちらも改善・向上の傾向が見られること。
⑦具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒…学習診断シート「家庭学習のやり方についての自己評価」の診断にもとづき、授業に臨む姿勢や家庭学習のやり方についての自己評価に向上が見られる。</li> <li>教員…校内ICT研修会の受講やICT支援員の積極的な活用によりICT活用が促進された。</li> </ul>
⑦ 評 価	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の自己評価・授業に臨む姿勢の各項目で「あてはまる」が年度比較で&lt;増7減8&gt;、同年比較で&lt;増14減1&gt;と1学期末よりも2学期末のほうが増加・向上傾向が見られた。</li> <li>家庭学習のやり方の項目「自分の力で取り組むことができない」生徒が一定数存在している。1学期の状況や過年度と比較したデータを学年に伝え、学年間で情報を共有してもらい、今後の指導や対策に利用してもらったが、2学期の結果はほぼ同じであった。今後は、宿題・課題の量や内容を精選していく必要があると感じた。</li> <li>教員の自己評価・昨年度との比較で授業改善に関する項目の総平均が3.4→3.4と同じであった。</li> </ul>
⑨学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価Cとなっているが、きびしすぎる自己評価は生徒の自己肯定感を下げる懸念があるため、実績に基づいたポジティブな評価をすべき。</li> <li>入学時から卒業時までの成長の軌跡をエビデンスとして示してはどうか。</li> <li>生徒同士が教え合ったり、上級生が下級生を教えたりする仕組み作りをしてはどうか。</li> <li>ICTを活用して自学自習の道を模索してはどうか。</li> </ul>
⑩次年度へ 向けての 課 題	家庭学習のやり方の項目「自分の力で取り組むことができない」生徒を減らす方策を検討していく必要がある。またGP自己評価と関連させ、「何を学び、何ができるようになるか」「身につけさせたい力」を含めて教員間で話し合いをしていきたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

①重点項目	学校生活（生徒指導）
②重点課題	社会生活の基盤となる基本的生活習慣の確立
③現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元の中学校からの入学者が 42%程度いるが、県内の広い地域からの生徒で構成されている。</li> <li>・ 女子生徒が全校生徒の約 70%を占め、生徒の多くは、穏やかで素直な生徒が多い。</li> <li>・ 生徒の中には教職員にしっかりと挨拶ができない者がいる。また、挨拶を交わしても声が小さかったり、うなずくだけの生徒も多くいる。</li> <li>・ 時間厳守、服装など、指導を要する生徒が一部見られる。</li> <li>・ 天候や環境等の状況によつての変動を踏まえ、先を見越した余裕を持った主体的な行動がとれない生徒も見られる。</li> </ul>
④達成目標	<p>毎日、来校者や教職員、友人と自ら挨拶を交わせた生徒の割合</p> <p>80%以上</p>
⑤方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全教職員が一体となり、生徒指導上の問題や課題の解決、改善に向けてしっかりと取り組むとともに、学校全体としてルールやマナー等を守っていこうとする機運を高める。</li> <li>・ 毎朝、生徒指導主事等が生徒玄関において生徒の登校指導を行い、挨拶、服装、時間厳守等と呼びかける。</li> <li>・ あいさつに関するアンケート調査を行い、実態把握に努めるとともに、改善点を明確にし、自ら挨拶を交わすことができる生徒を育成していく。</li> <li>・ 生徒会執行部と自律委員会が中心となり、適宜、朝の挨拶週間を設けるなど、主体的な活動を充実させる。</li> <li>・ 元気な挨拶については、生徒会執行部や自律委員会が全校生徒に向け、提案や啓発活動を行い、生徒自らが元気な挨拶ができるよう意識を高めさせる環境づくりを積極的に行っていく。</li> </ul>
⑥達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「あいさつ」に関するアンケート結果より、学校で教職員や友達、来校者の方に挨拶を行うという生徒の割合は98%以上であった。また、自分から人に挨拶をすることは難しくはないと思っている生徒の割合は約86.3%であった。しかし、2, 3学年において前年比で見ると割合が下がっている。</li> </ul>
⑦具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎朝、生徒指導主事の他、有志教員による玄関指導を実施。今年度は音楽をかけて生徒を迎えるようになり雰囲気明るくなった。</li> <li>・ 4月と9月に地元三ヶ地域自治振興会主催による小杉駅前でのあいさつ運動に、地域住民と教員、4月は生徒会執行部、9月は自律委員の生徒が参加。</li> <li>・ 学期毎に教員による登校時の玄関指導を実施。</li> <li>・ 5月、10月に自律委員会による生徒中心のあいさつ運動の展開。</li> <li>・ 9月にPTA生活指導・家庭教育委員会と教員による生徒玄関前及び通学路交差点での登校指導の実施。</li> <li>・ 12月に全校生徒に「あいさつ」に関するアンケート調査の実施。</li> <li>・ 自律委員会の生徒に10月と1月にアンケートを実施。アンケート結果をもとに改善点や意見を出し、今後に向けて生徒主体による取り組みについて考えた。</li> </ul>
⑧評 価	<p>B</p> <p>社会生活の基盤となる基本的生活習慣の確立における挨拶の指導では、PTAも含めた学校全体で組織的に取り組むことができた。</p>
⑨学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート結果の公開：「挨拶しても返ってこないと悲しい」「緊張して返せない」といった生徒の生の声（自由記述）を、あえて生徒全員に公開してはどうか。</li> <li>・ 相互理解の促進：「相手が無視しているのではなく、緊張しているだけかもしれない」と互いの心理を知ること、心理的ハードルが下がり、挨拶しやすい環境が生まれる。</li> </ul>
⑩次年度へ 向けての 課 題	<p>生徒主体で行うあいさつ運動を継続していくことはもちろんだが、その頻度や内容について、より効果が上がるよう改善を図っていく。また、挨拶を自分から積極的にできない生徒は、人間関係や距離感に不安を感じていることが一つの要因となっているのではないかと思われる。挨拶をきっかけに、人間関係を構築する基盤を作っていきたい。</p>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

⑧ 重点項目	学校生活（保健指導）
⑨ 重点課題	基本的な生活習慣の確立と生活時間の自己管理能力の向上及び定着
⑩ 現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は卒業後、進学や就職により、自身の生活管理を行っていく必要がある。生活習慣を見直す機会と自身の健康管理能力の向上を目的として、健康セルフチェックを行ってきた。それにより、自分の生活習慣や時間の使い方について見直し、改善する者も見られた。しかし、授業の様子や保健室来室者の様子から、改善すべき生活習慣の「気づき」を実行に移し、維持することができていない生徒も多い。</li> </ul>
⑪ 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康セルフチェックでの結果が1年を通して向上するとともに、2・3年生は昨年度との比較でも良い方向に数値が向上することを目指す。</li> </ul>
⑫ 方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も定期的に健康セルフチェック強化週間(5, 7, 9, 10, 12月)を設け、アンケートを通して自己評価を行うとともに、生活習慣と時間の使い方改善の意識を高める。</li> <li>・学校保健委員会や健康講話、保健だよりなどを通して生活習慣の重要性や時間の使い方について考える機会を増やし、学校と家庭の連携に努める。</li> </ul>
⑬ 達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は健康セルフチェックをはじめ3年目であり、3年間を通しての変化を追う事が出来た。生活習慣については1年次に比べ3年次には整っていると答えている生徒が増えている。しかし、睡眠の減少や10時以降の携帯使用の増加がみられている。</li> <li>・1年を通してでは、5月と12月で改善は見られなかった。年内の変化はあり、睡眠やスマホの使用など7月や9月に生活習慣の乱れが大きいようである。このため7月ごろにポスターなどで重点的に呼びかけを行うことを検討する。</li> <li>・養護教諭による個別指導により、自身の生活を見直し、生活改善を目指す生徒もいた。</li> </ul>
⑦具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度から継続して、健康セルフチェックを5回(5, 7, 9, 10, 12月)実施した。</li> <li>・学校保健委員会では生徒保健委員会から、2・3年生について昨年度と同時期（5月）と比較して気づいたことを発表した。</li> <li>・生徒保健委員より睡眠や食事、SNS、スマホ、感染症予防についてのポスターを制作し、生徒たちへの注意喚起を行った。</li> <li>・健康セルフチェックの結果や生徒の感想を1月にPTA保健委員に配布し、保護者としての意見を伺った。22時を過ぎても携帯を使用している生徒が多く、親や学校がどのように取り組んだらよいか悩んでいる等の声があった。</li> </ul>
⑭ 評 価	C 現状維持の項目が多く、Cとした。
⑨学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健だよりを紙で配るだけでなく、保護者の閲覧率の高い安心安全メールで発信するなど、デジタルでの発信を強化すべき。</li> <li>・生徒の自己申告（「できている」）と、親から見た実態（「いや、できていない」）の乖離を把握するため、保護者の視点を入れた調査を行い、現状を正しく認識する必要がある。</li> </ul>
⑩次年度へ 向けの 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度は呼びかけの内容を絞り重点的にスマートフォン使用や睡眠時間について、保健委員会でポスターを作成することを検討している。また家庭からの協力が重要であるため保健だよりで呼びかけていく。セルフチェックとして自身の生活を見直す機会は必要であると考え、タブレットも利用しながら、継続して実施していきたい。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

⑮ 重点項目	進路・キャリア支援		
⑯ 重点課題	3年間を見通したキャリア教育の推進と進路実現		
⑰ 現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な進路目標のない生徒や将来やりたいことがわからない生徒がいる。具体的な進路目標が定まっても自主的、意欲的に学習に取り組まず、学力不足のまま入試をむかえる生徒も見られる。</li> <li>自己管理のための「手帳」は3学年になると活用頻度が増えるが、1、2年生は活用しきれていない。</li> </ul>		
⑱ 達成目標	1・2年生 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」が、系列の選択や将来の職業観を踏まえた自分の生き方・考え方などにとって参考となったと考える生徒の割合	3年生 進路決定先に満足している生徒の割合	全学年 高校生活を過ごす上で手帳を活用できたと考える生徒の割合
	85%以上	100%	60%以上
⑲ 方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間を見通したキャリア教育を計画的、継続的に行い、職業観や就業観を育み、進路意識の向上をはかる。</li> <li>継続的な個別面談を行い、早期に進路目標を設定したり、学習意欲を喚起したりする。小杉高校GP自己評価を行い、その結果を個人面談や進路指導に活かすことで、多様な生徒の進路実現につなげる。</li> <li>生徒に手帳を使う意義について話したり、手帳を使用する具体的な場面を作ったりして手帳の活用を啓発することで、生徒が自ら積極的に情報を集め、計画、実行、振り返りをする習慣を3年間で身に付け、主体性をもってそれぞれの進路を実現させる姿を目指す。</li> </ul>		
⑳ 達成度	<p>「はい、どちらかというとはい」と回答した生徒の割合（全学年：2学期末調査）</p> <p>学年別達成目標 1年 89.9% 2年 80.8% ※3年 79.0%</p> <p>全学年共通達成目標 1年 16.1% 2年 28.8% 3年 24.8%</p> <p>※32名の進路未決定の生徒が含まれる。1月末の時点で進路が決定している121名の生徒については、満足している生徒の割合は100%の結果。</p>		
㉑ 具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「産業社会と人間」では、に上級学校訪問、大学学部学科調べ、射水市政出前講座、系列科目登録説明会、県外進路研修、社会人班別講話、進路ガイダンス等を実施し、生徒の系列選択や進路意識を高めた。また今年度に限り、<b>地域産業発見探訪と題し、射水市の企業見学を実施し、実際に地元の企業を見学することで、就業の具体的なイメージを持つことができた。</b></li> <li>2学年では「総合的な探究の時間」で、新しい取り組みとして企業課題研究に取り組んだ。企業よりいただいた課題を研究テーマとして、具体的な解決策の提案をグループワークで考える体験をした。</li> <li>教員による普段からの呼びかけと、学校に新しく設置したキャリア掲示板を活用し、手帳の利用を促した。各授業や担任との面談時に持参するように促した。</li> </ul>		
㉒ 評 価	C	<p>学年ごとの目標について、1年生は達成、2年生も80%を超え、ほぼ達成したといえる。3年生の進路目標については上記の通り、現時点では100%の達成である。</p> <p>全学年共通の目標である手帳の活用であるが、例年は3学年になれば半数程度の生徒が手帳を使用する傾向にあるのだが、今年度は芳しくなかった。使い方が分からない生徒に関しては、教員の日常的な指導で解決できるようだが、習慣化できない生徒や、手帳に必要性を感じていない生徒が多い。</p> <p>生徒自身がその必要性を感じないと実施させることは難しいというのは以前からの課題であるが、真剣に自分の進路について考えようという気持ちが希薄になってきているのではないかと考える。学習の計画や振り返りで手帳を活用するだけでなく、課題研究や部活動など、興味を持って取り組んでいるそれぞれの活動についても活用する場面をもっと積極的に増やすように指導したいと考える。</p>	
㉓ 学校関係者の意見	<p>企業課題研究などが1年間で完結せず「調べ学習」に留まってしまう場合、大学の研究のように「前年度の成果を後輩が読み込み、その続きからスタートする」というリレー形式にすると、より深い提案に繋がる。</p>		
㉔ 次年度へ 向けての 課 題	<p>3年間を見通したキャリア教育は生徒の進路実現に大いに貢献しているので、次年度以降も継続していきたい。</p>		

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

①重点項目	特別活動	
②重点課題	特別活動やボランティア活動など生徒の自主的な活動の充実	
③現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事やホームルーム活動、委員会活動において生徒会役員やクラス委員を中心に新たな企画の提案や取り組みを意欲的に行っており、主体的に活動する機会が増えている。</li> <li>・部活動やボランティア活動に熱心な生徒がいる一方で、特別活動が学校生活を充実させたという意識が低い生徒が1割以上いる。</li> </ul>	
④達成目標	学校行事や各種特別活動に自主的に取り組み、自己達成感を持つ生徒の割合	学校生活を充実したものにするために、実際に行動したことがある生徒の割合
	90%以上	90%以上
⑤方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部と各委員会・クラス・部活動などが連携して活動を企画し、組織としての生徒会活動をより活性化させ、生徒の参加意欲を高める。また、体育大会等の学校行事では「一人一役」とし、役割意識を高めるとともにリーダー育成に努める。</li> <li>・部活動に関する問題点を洗い出し、自主的な運営方法など改善策について検討する。</li> <li>・校外清掃活動や地域行事への参加など生徒が人々の役に立ち喜ばれる機会を設けるとともに、ボランティア活動に関する情報をできる限り発信し参加する機会を増やす。</li> </ul>	
⑥達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己達成感を持つ生徒の割合については、体育大会や部活動、その他学校行事におけるアンケート結果より考察した。資料①の体育大会では満足度96.8%、役割意識93.3%で、どちらも前年より低下している。不満やできなかったと回答した理由では「当日欠席した」「外で練習したかった」「あまり仕事なかった」など気持ちはあると思う活動ができなかったと考える生徒が多かった。部活動は資料③の種類別より、満足、まあ満足の割合が全体では94.7%、運動部、文化部、同好会すべてにおいて90%を超えている。</li> <li>・実際に行動したことがある生徒の割合は資料④から考察した。特になしと回答した生徒は35人（全体の7.7%）で学年の偏りはあるが昨年度と同じだった。2学年は他学年と比べると全体的に少ない傾向だが、R6年度1年の数とR7年度2年の数を比較すると、クラス委員の仕事やあいさつなど日常的な活動において行動できたと感じる生徒が増えた。今年度は地域清掃などにおいて係分担を決めて実施したことで、微量ではあるがプラスになったと感じた生徒がいたと推測する。</li> </ul>	
⑦具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育大会では「一人一役」となるよう部活動ごとに役割を分担して係活動を行った。しかし係によっては一人当たりの仕事量に差があり、やり遂げたと感じた生徒が減少した要因となったと考える。地域清掃ではクラス会長や副会長、ホームルーム運営委員が中心となって活動場所や目標についてクラスで話し合い、当日の活動を行った。クラスをまとめる役割として活動を行う中で自己達成感を持つことができたと考えられる。</li> <li>・部活動についてはどの学年も8割以上の生徒が活動に満足している。また、不満の理由についても「もっとやりたい」と感じている生徒が多くみられた点から部活動に対して積極的に取り組みたいと考えている生徒が増えたと考えられる。</li> <li>・学校生活を充実したものにするための活動では、クラス委員の仕事やあいさつを選択する生徒が昨年度よりも増えた。さまざまな活動を行う中で役割を明確にして活動を行うことで、充実したものと感じたのではないかと考える。しかし、学年で差はあるが「特になし」を選択した生徒数が同じだったため、何らかの方策が必要である。</li> </ul>	
⑧評 価	C	全体的な結果を見る限り、昨年度よりも減少しているものが多くある。また、どのような生徒、どのような担当が実施したとしても良い方向になるためには実施方法等の検討・改善が必要だと考える。
⑨学校関係者の意見	小杉展示館20周年イベントへの協力など、生徒の地域貢献は非常に高く評価されており、今後も地域をフィールドにした活動を継続してほしい。	
⑩次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自己達成感を持つことができるよう、学校行事だけでなく各種特別活動において自主的に取り組みたいと考える働きかけを続けていく必要がある。今年度はできる限り活動の振り返りとしてアンケートを実施し、生徒へのフィードバックを行った。</li> <li>・部活動においては生徒にとってクラスや学年とは違ったコミュニティとして、学校生活を充実させ、最後まで続けたいと思える活動にするため、生徒への働きかけだけでなく部顧問との連携を図っていく必要がある。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)